

# ◆ミニレクチャー

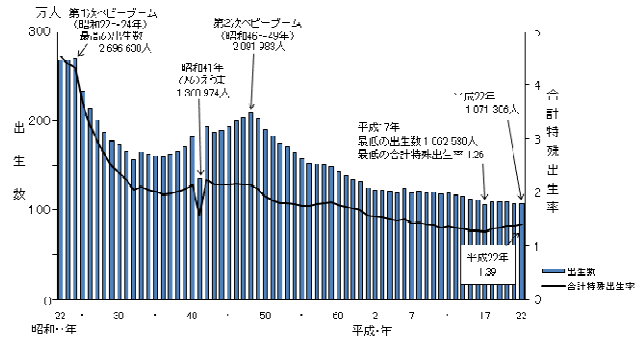
テーマ 「人口の疫学と当院 NICU の 10 年間」

講師 母子医療センター長 野坂 和彦 先生

## 平成22年の日本の指標

- 総人口: **1億2806万人**
- 年少人口: **13.1%** 生産年齢人口: **63.8%** 老年人口: **23.0%**
- WHO(世界保健機構)や国連の定義
  - 65歳以上人口の割合が7%超で「高齢化社会」
  - 65歳以上人口の割合が14%超で「高齢社会」
  - 65歳以上人口の割合が21%超で「超高齢社会」
- 年少人口指数: 20.5
- 老年人口指数: 36.1
- 従属人口指数: 56.6
- 老年化指数: 175.6

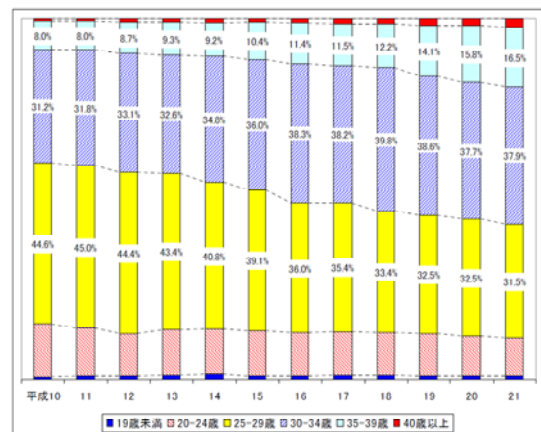
## 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



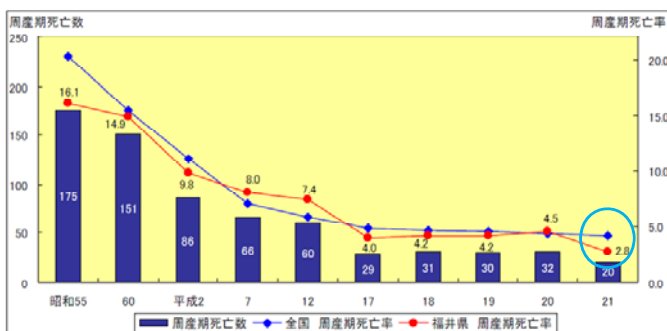
## 出生数、出生率の推移

年	昭和25	35	45	55	60	平成2	7	12	17	21	
全国	出生数 (千人)	2,338	1,606	1,934	1,577	1,432	1,222	1,187	1,191	1,063	1,070
	出生率	28.1	17.2	18.8	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.5
福井県	出生数 (人)	21,209	12,888	12,181	10,724	10,044	8,668	8,244	8,036	7,148	7,042
	出生率	28.2	17.0	16.3	13.6	12.2	10.6	10.1	9.8	8.8	8.8

## 母の年齢階級別にみた出生数の構成比



## 周産期死亡数(福井県)、周産期死亡率(全国、福井県)



## 平成22年度人口動態(福井県)

	実 数			率	
	平成22年	平成21年	差	平成22年	平成21年
出生	6,874人	7,042人	-168人	(8.5)	(8.5)
合計特殊出生率	-	-	-	(1.39)	(1.37)
死亡	8,417人	8,187人	230人	(9.5)	(9.1)
乳児死亡	15人	15人	±0人	(0.6)	(0.6)
新生児死亡	8人	4人	4人	(1.1)	(1.2)
自然増加	-1,543人	-1,145人	-398人	(-1.0)	(-0.6)
周産期死亡	20人 (胎)	20人 (胎)	±0人 (胎)	(4.2)	(4.2)
妊娠満22週以後の死産	14胎	17胎	-3胎	(2.0)	(2.4)
早期新生児死亡	6人	3人	3人	(0.8)	(0.8)

## 低出生体重児数(福井県)

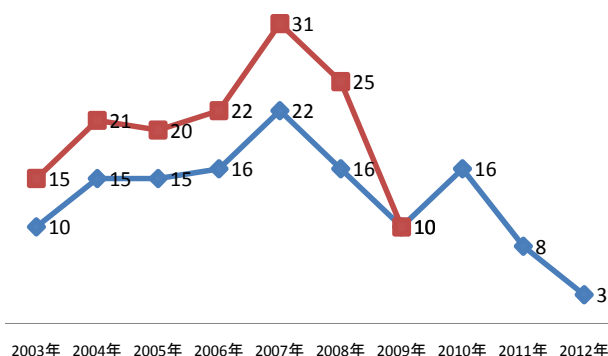
年(平成)	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
出生数	8,269	8,053	8,036	7,958	7,758	7,446	7,283	7,148	7,324	7,191	7,139	7,042	
低出生体重児数	数	632	603	621	635	599	589	632	571	631	637	665	603
	割合	7.64%	7.49%	7.73%	7.98%	7.72%	7.91%	8.68%	7.99%	8.62%	8.86%	9.32%	8.56%
超低出生体重児数	数	12	21	20	21	21	15	21	20	22	31	25	10
	割合	0.15%	0.26%	0.25%	0.26%	0.27%	0.20%	0.29%	0.28%	0.30%	0.43%	0.35%	0.14%

## 超低出生体重児

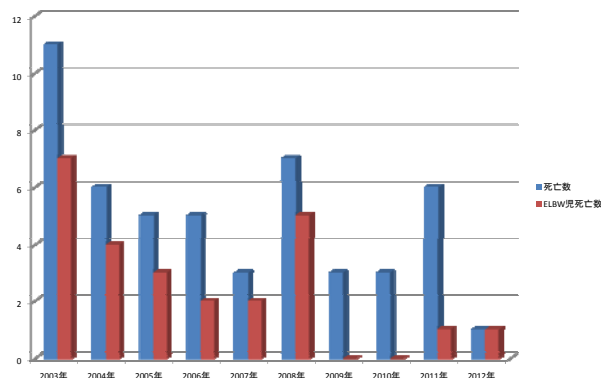
年度	当院	福井県	取り扱い割合(%)
2003年	10	15	67
2004年	15	21	71
2005年	15	20	75
2006年	16	22	73
2007年	22	31	71
2008年	16	25	64
2009年	10	10	100
2010年	16		
2011年	8		
2012年	3		

県ELBW出生数と当院取り扱い数

◆超低出生体重児 ■県ELBW出生数



入院中の死亡数とELBW児死亡数



以下は講師・野坂先生によるまとめです。

日本の平成22年度の総人口は1億2806万人であったが、年少人口は13.1%で老年人口が23.0%であった。WHOの定義によれば超高齢社会であり、日本の特殊性はここにいたるスピードの速さにある。日本の出生率は下がり続けており、合計特殊出生率も2を切った状態で、人口減少社会となることが予測され、現実にもそうになっている。

福井県も全国と同じであるが、出生率は若干高い。合計特殊出生率はやはり2を下回り、人口減少に転じている。または母親の出産年齢は上昇の一途をたどっている。このような状況の下で日本の周産期死亡率は世界的にきわめて低く、世界一の水準となっていて、日本の周産期医療の優秀さを示している。その中でも福井県の周産期死亡率は平成21年度では都道府県別で全国1の低さとなっている。

一番新しい平成22年度の人口動態統計でも福井県の出生数は6874人とさらに減少し、人口は前年と比較して398人減少している。しかし周産期死亡率は2.9であり、平成21年度と同様に全国最低であった。超低出生体重児(ELBW児)は周産期死亡とも関係するが、福井県では毎年10人~30人程度生まれる。そのうち当院で診療する割合は、里帰り分娩などもあり、概算ではあるが、7割前後と考えられる。また以前と比較してELBW児の入院中死亡の割合、および数は激減しており、周産期医療の進歩を表している。